

## 第4回 東北の被災地の移住女性たち

- ◆2011年3月11日、大地震と津波、福島原発の崩壊事故によって、住民は甚大な被害を受けた。死者15,889人、震災関連死者2,973人、行方不明者2,597人に上る（2014年11月10日現在）。そのうち外国人の死者は33人（中国12、韓国・朝鮮13、フィリピン4、アメリカ2、カナダ1）となる。
- ◆遅々として進まない復興事業の中で、外国人被災者は生活再建の道をさらに阻まれている。
- ◆政府や地方自治体が行なっている被災者支援事業において、国籍による排除や制限はない。しかし、外国人被災者の多くは、「言葉の壁」「心の壁」によって、支援情報を得ること、それを利用することが、きわめて困難なのである。

### ◆会場◆ 在日本韓国YMCA 3階教室 (東京都千代田区猿楽町2-5-5、03-3233-0611)



JR「水道橋」駅東口より徒歩6分、地下鉄「神保町」駅より徒歩7分

- ◆東北の被災地に住む外国人は、在日コリアンや技能実習生を除くと、多くが移住女性である。移住女性は1980年代後半以降、日本人との国際結婚で東北地方の農村・漁村・中小都市部へ移住して来た中国人・フィリピン人・韓国女性たちである。
- ◆震災から4年目を迎えようとしている今、移住女性が直面している困難さとは何か、移住女性の震災体験から問う日本の多民族・多文化共生の課題とは何か、ともに考えてみたい。

日時●2015年2月28日(土) 18:30~

会場●在日本韓国YMCA 3F

資料代●1,000円(大学院生以下500円)

お話●李善姫さん(東北大学東北アジア研究センター・専門研究員)

\* 学習会終了後、講師を囲んで会場で懇親会もあります。

◆主催：移住連／在日本韓国YMCA／RAIK